

被評価者	静岡市障害者相談支援推進センター	
合計	自己評価：98／110	利用者評価：94／110

評価項目 1：相談対応	自己評価：23／25	利用者評価：24.2／25
-------------	------------	---------------

**【改善計画】**

- ①相談支援人材の育成によりシフトした事業所運営を目指し、運営課題の整理をする。外部人材（主任相談支援専門員）と協働による人材育成を検討する。また、実施体制として、全体の業務量に見合った人員配置を検討する（学生インターンや非常勤職員の活用）。
- ②基幹相談支援センターとして効果的・効率的な相談対応を実施するために、相談対象の絞り込み及び移行先を検討する。多職種連携に向けたマニュアル（仮）を検討し、作成する。
- ③飛び込みの相談等により相談室の確保が困難な場面について、中央福祉センター内のオープンスペース等（貸し切り）を活用する。

**【振り返り】**

- ①相談支援専門員研修から同現任研修までの中間的な時期での研修の必要性について、アンケートを実施。また、市内主任相談支援専門との意見交換を実施。令和7年2月を目途に、研修テーマを絞り込む予定。検討案としては、下記テーマを3か月に1回のペースで継続開催していきたい。なお、テーマはアンケートの結果等を踏まえ精選予定。計画相談支援事業所へのアウトリーチについては別途検討の機会を設けたい。
  - ア 相談支援業務について、請求業務、各種加算、体制届等の行政説明、事務的な研修
  - イ サービス等利用計画作成時のアセスメントに関する研修
  - ウ 多職種連携による事例検討に関する研修
  - エ ナラティブストーリーによる利用者へのアプローチに関する研修
  - オ 個別支援会議等におけるファシリテーション

**【事務局確認結果】**

主任相談支援専門員と連携した人材育成及び基幹相談支援センターの相談対象適正化を進めることで持続可能な相談支援の実現に取り組まれていることを確認しました。

また、飛び込み相談等への対応として、中央福祉センター内の会議室やオープンスペースを活用することで、迅速に来訪者のプライバシー確保及び対応強化を達成したことを確認しました。

今後も、検討内容を着実に実行しながら、関係機関や利用者への説明・周知を丁寧に進め、相談対応の強化に取り組んでいきたいです。

に関する研修

カ 計画相談支援事業所を個別に訪問することでの困りごと相談・研修

キ 自立支援協議会や各行政区障害者相談支援連絡調整会議の活用に関する研修

ク 触法障がい者支援に関する研修

ケ 家族丸ごと支援に関する研修

コ 災害時要配慮者個別避難計画作成、防災・減災に関する研修

業務量に見合った人員の配置については、次年度の委託仕様書や委託金額の確定がないなかで、見切り発車となるが、経験豊富な希望者1名について折衝中。

② 障害者協会の構成団体である当事者団体からは個別相談から撤退することは、セーフティーネットとしての役割から、継続してほしい旨の要望があった。関係者の意見も踏まえながら、移行先・連携先機関への一層の丁寧な説明と依頼様式の整備を引き続き行いたい。また、利用者（相談者）のライフステージやニーズに応じた連携機関一覧の作成を計画中。

③ 執務室内の相談スペースのほかに、中央福祉センター会議室及びオープンスペースを週の過半（3～4日）確保。飛び込み相談等にも対応できる体制を整備した。

**【改善計画】**

- ①基幹相談支援センターの取り組むべき業務として、再掲になるが、基幹相談支援センターで対応すべき相談対象の絞り込み及び移行先を検討する。多職種連携に向けたマニュアル（仮）を検討し、作成する。
- ②新規相談事業所（設置3年未満）への基幹相談支援センターとしてのアプローチと全市的な相談支援体制をよりシステムチックに運営する仕組みを検討する。相談支援部会が開催する「三層構造の理解」の取り組みと協働した計画相談支援事業所向けアンケートを実施。アンケート結果の課題整理、改善策を検討する。
- ③児童発達支援センターとの一層の連携に向け、国が示す同センターの機能拡大仕組みの理解と静岡市における方向性を確認する。

**【振り返り】**

- ① 再掲となるが、障害者協会の構成団体である当事者団体からは個別相談から撤退することは、セーフティーネットとしての役割から、継続してほしい旨の要望があった。関係者の意見も踏まえながら、移行先・連携先機関への一層の丁寧な説明と依頼様式の整備を引き続き行いたい。また、利用者（相談者）のライフステージやニーズに応じた連携機関一覧の作成を計画中。
- ②12月に市内計画相談支援事業所56カ所にアンケートを実施した。1月中に課題分析予定。改善策については、相談支援部会と連携し提案する。
- ③静岡市自立支援協議会の地域課題として「児童発達支援現状と早期療育に関する支援体制整備の必要性について」を確認した。今後の協議内容も踏まえて、児童発達支援センターとの連携を進めていきたい。

**【事務局確認結果】**

基幹相談支援センターの役割を踏まえた具体的な対応が検討されていることを確認しました。相談対象の適正化や多職種連携に向けたマニュアルの作成、新規事業所へのアプローチ強化などの取組みは、相談支援体制の強化に向けた一歩であると考えます。

また、計画相談支援事業所向けのアンケート実施や課題分析により、現場の実情を把握した上での改善策の検討が進められている点を確認しました。さらに、児童発達支援センターとの連携において、地域課題を踏まえた具体的な方向性が模索されていることを確認しました。

引き続き、関係者間での情報共有や丁寧な説明を重ねるとともに、関係機関等の連携強化を図っていただきたいと考えます。

<p>評価項目3：地域全体の向上のための取組</p>	<p>自己評価： 13／15</p>	<p>事務局評価： 11.9 ／15</p>
<p><b>【改善計画】</b></p> <p>地域の相談支援事業所のスキルアップ研修の整理と具体的な実践。主任相談支援専門員配置加算事業所との連携。</p> <p>ア 人材育成機能について外部人材の活用、主任相談支援専門員と協働による人材育成</p> <p>イ 現任研修までの間に必要な研修内容の整理</p> <p>ウ 研修計画の作成</p> <p><b>【振り返り】</b></p> <p>再掲となるが、相談支援専門員研修から同現任研修までの中間的な時期での研修の必要性について、アンケートを実施。市内主任相談支援専門員との意見交換を実施。令和7年2月を目途に、研修テーマを絞り込む予定。検討案としては、下記テーマを3か月に1回のペースで継続開催していきたい。なお、テーマはアンケートの結果等を踏まえ精選予定。計画相談支援事業所へのアウトリーチについては別途検討の機会を設けたい。</p> <p>ア 相談支援業務について、請求業務、各種加算、体制届等の行政説明、事務的な研修</p> <p>イ サービス等利用計画作成時のアセスメントに関する研修</p> <p>ウ 多職種連携による事例検討に関する研修</p> <p>エ ナラティブストーリーによる利用者へのアプローチに関する研修</p> <p>オ 個別支援会議等におけるファシリテーションに関する研修</p> <p>カ 計画相談支援事業所を個別に訪問することでの困りごと相談・研修</p> <p>キ 自立支援協議会や各行政区障害者相談支援連絡調整会議の活用に関する研修</p> <p>ク 触法障がい者支援に関する研修</p> <p>ケ 家族丸ごと支援に関する研修</p> <p>コ 災害時要配慮者個別避難計画作成、防災・減災に関する研修</p>		<p><b>【事務局確認結果】</b></p> <p>人材育成機能強化を目標に主任相談支援専門員との協働を進めながら、研修内容の整理と研修計画策定に向けた準備がなされていることを確認しました。アンケート調査や意見交換を通じたニーズに即した研修を計画的に実施することで、地域の相談支援の質向上に資すると期待されます。引き続き、研修計画の具体化と実行に向けた調整を進めていただきたいと思います。</p>

評価項目4：事務所の体制整備等	自己評価： 41 / 45	事務局評価： 38 / 45
<p><b>【改善計画】</b></p> <p>①当協会が毎月開催している障害者プラン勉強会において、静岡市障がい者共生のまちづくり計画と関連させながら障害福祉サービス等の整備状況を確認し、職員間で情報共有する。</p> <p>②多岐にわたる相談ケースの支援進捗管理について、キントーン等のシステムツールを活用する。</p> <p><b>【振り返り】</b></p> <p>①毎月開催する職員会議での概要報告、資料回覧により共有できた。</p> <p>②相談ケースは、紙資料はPDF化のうえキントーンの日報に添付。システム活用により、省力化して職員間共有ができた。また、職員の動静については、グループライン等で共有した。</p>	<p><b>【事務局確認結果】</b></p> <p>適切な事務処理や運営体制の整備に向けた取り組みを確認しました。特に、個別ケースの進捗管理において、効率化ツールを活用した省力化とともにきめ細かな情報共有が進められていることを確認しました。また、紙資料のデジタル化や職員間の動静共有を具体的に実施し、業務円滑化に努めていることが伺えます。</p> <p>毎月開催の職員会議を通じた情報共有や、障害福祉サービスの整備状況の確認と職員間の連携強化は、組織全体の意識統一と業務効率向上につながるものです。一方で、システム活用のさらなる最適化や職員間での理解の深化を図ることで、情報共有の精度と事務処理の効率化が一層向上する可能性があります。</p> <p>今後も適切な個人情報管理や効率的な支援体制整備を進めていただきたいと思います。</p>	